

(氏名) 山藤 宏子

著書、学術論文、学会発表等の名称	単著、共著の別	発行又は発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(著書) はじめまして子どもの権利条約	共著	2016年3月	東海大学出版	子どもが持つ権利をわかりやすく示すことにより、子ども理解を啓蒙するとともに、支援者としての大人の果たすべき役割を考察させるテキスト。条約の翻訳と全編の編集を担当。
保育者のための保育実習対応ガイドブック	共著	2019年3月	大学図書出版	保育実習でのスムーズな実習力向上に必要な情報を集約したガイドブック。子どもとの関わりのスキル向上のページ担当。
(学術論文) 里子の受託、養育、解除における里親のニーズの把握と支援-里親にとって措置解除とは何か-	共著	2015年11月	日本子ども家庭福祉学会, 子ども家庭福祉学	里親の語りから里子との別れの場面における里親の心情を明らかにし、今後の里親支援に効果的な援助の方法を探った。「措置解除・措置変更時」について詳細な分析を行ったところ、里子が去った後の里親はネガティブな感情を持つことが示唆された。このような感情の形成を減少させるためには、情報の提供が有効であると考察した。
トイレトレーニングにおける排泄自立へ向けた幼児の行動特徴	単著	2016年3月	人間科学研究 Vol. 29	トイレという新しい環境で、排泄という新しい行動を身につけるまでの子どもたちの行動に着目、トイレトレーニングに効果的な手法を検討し保育士や母親の負担軽減に繋がる提案を行うことを目的として行った。その結果、トイレトレーニングにおいて、子どもたちは自分が置かれた環境から必要な情報を能動的に選んで獲得しているという行動の表出を確認した。
保育専門学校生における新生児の身長イメージ記述による表現と身体による表現の比較検討	共著	2017年3月	草苑保育専門学校研究紀要 1	本学の新生児に、新生児の身長を「記述による表現」と「身体による表現」の2つの表現方法でイメージさせた。その結果、「記述による表現」および「身体による表現」において、新生児の身長を実際より小さくイメージする学生が多い傾向にあることがわかった。授業のなかで新生児の身長を扱う際は、数値と併せて視覚的にサイズを提示することの重要性が考察された。
即戦力を育む草苑式保育実習プログラムの開発	共著	2017年3月	東京都私学財団研究報告集	実習オリエンテーションにおいて、保育園からは「事務的な事柄」と「現場的な事柄」について情報提供されていることが明らかになった。学生は実技に関する「現場的な事柄」について不安を持ち、より詳しい説明を求める傾向があることがわかり、保育者養成校においては保育技術獲得のための教育が重要であることが示唆

保育専門学校生における新生児の体重のイメージ記述による表現と抱き上げ選択による比較検討	共著	2017年12月	草苑保育専門学校研究紀要2	された。 保育者養成校の新入生に、新生児の体重を「記述による表現」と「抱き上げによる選択」の2つの表現方法でイメージさせた。「身長」を異なるモダリティで比較した甲賀・山藤(2017)を踏まえて、発育及び発達の状態の指導においては、テキストを読ませるだけの授業や講義形式の授業だけではなく、実際に「体感させる」経験を積ませることの重要性が考察された。
子どもの身体産生物に対する保育者の好悪感情-アロマザリングの担い手としての専門性-	共著	2017年12月	草苑保育専門学校研究紀要2	本研究は、子どもの身体産生物に対する母親と保育士の感情を比較することによって、アロマザリングの担い手である保育者の専門性、養護力を明らかにすることを目的とした。分析の結果、保育士は負の刺激を身体レベルで受け入れて子どもに接している可能性が示唆された。また、その身体感覚は保育士としての経験年数の長短とは関係がないということが明らかになった。
延長保育における保育者の負担感の検討	共著	2018年3月	東京都私学財団研究報告集	夕刻以降の保育において、保育者が行っている援助とその負担感の関係について分析した。その結果、日中の保育に比べると十分な保育計画が立てられていないこと、保育者の人員配置が十分でないなどの問題点が浮き彫りになった。現場で保育している保育士はジレンマを感じながら日々の延長保育に携わっていることがわかった。
保育専門学校生が考える保育者の表現技術-保育実践力向上のための意識調査-	単著	2018年3月	草苑保育専門学校研究紀要3	保育専門学校生が子どもたちの前に立つ際に、必要だと考えている事項、また現時点で不足している事項を調査した結果、学生が必要と感じている事柄は、保育技術に直結していた。一方、不足していると感じている事柄は、保育の知識や経験といった保育の専門性であった。保育技術の具体的な教授に加え子どものイメージの構築、他科目との連携が必要であることが分かった。
幼稚園教育要領の改訂を踏まえた保育者養成校の課題	共著	2018年3月	草苑保育専門学校研究紀要3	幼稚園の現場で幼稚園教育要領がどのように認知、活用されているのかを調査した。学生たちが幼稚園教諭となった際、「教育水準」「教育の機会均等」を意識し、「子どもの権利」を優先する教育を提供しようと努める時の指標として幼稚園教育要領を活用できること、また、教諭としての知識のみならず、社会人としての自覚を持たせる授業構築により学生に意識変革を求めていく必要性が示唆された。
困難な養育事例	共著	2019年3月	草苑保育専門学校研	特別な配慮を必要とする里子の増加、委託期

から学ぶ里子養育の現状と課題			究紀要 4	間の短期間化など、里親は様々な困難な問題と向かい合いながら里子の養育にあっている。こうした里親の心情を明らかにした結果、措置解除後も里親家庭を継続するためには、養育への自信喪失を防ぐ支援の必要性が明らかになった。
児童館活動における子どもの権利の尊重についての検討	共著	2020年3月	児童健全育成推進財団 第5回助成研究報告書	2018年10月に施行された「児童館新ガイドライン」には、児童館の特性が明記されると共に、全章に渡って子どもの意見尊重、子どもの最善の利益等が示されている。現場への調査から、子どもの健全な育成のために児童館には「地域性」が強く求められており、その実現のためには児童館職員の社会的地位の確立と資質の向上が急務であることが示唆された。
(学会発表) 発達に隔たりがある里子の不 適応行動と措置解 除について	共	2016年9月	日本社会福祉学会 第 64回 秋季大会	里子の解除を経験した里親の養育中を振り返る語りから、小中学校における里子の不適応行動により自己の養育力に対して自信を喪失しているケースが表出した。学校現場においては、里子の行動上の問題を理解した上で本人が適応できる環境を整えることが望ましいと考えられ、進級、進学の際に情報を繋いでいく重要性も示唆された。
保育実習の事前 指導に学生が求 める情報の検討	共	2017年3月	日本保育者養成教育 学会 第1会大会	保育実習前のオリエンテーションにおいて保育園から提供される情報について検討した。その結果、学生は実習期間中の具体的な保育内容についての情報を求めていることが明らかになった。中でも責任実習についての指示、保育実技の詳細についての指示を求めている姿があらわれた。
子育てニーズに 応える延長保 育を考える：延長 保育に対する保 育者の認識と課 題	共	2017年11 月	日本子育て学会第9 回大会	保育者が延長保育をどのように考えて保育にあっているのかについて検討した。日中の保育と比較すると正規職員の配置人数が少ないことや、発達段階に応じた関わりが必ずしも保障できないこと、指導案がないことなどから、現場の保育者は、日中の保育に比べ延長保育では、十分な保育の提供はできていないと感じていることが明らかになった。
子育てニーズに 応える延長保 育を考える：延長 保育にみる子育 て支援の現状と その特性	共	2017年11 月	日本子育て学会第9 回大会	現場の保育者は、延長保育では十分な保育の提供ができていないと感じている反面、担任以外の保育者との関わりや少人数での保育体制など、保育環境が日中と違うことにより、子どもに良い刺激を与えることができていると感じていることも明らかになった。保育者は長時間保育によって子どもの発達保障に大きな支障を来すことはないと考えて

(その他) 豊島区青少年 育成委員会連 合会 講演	単	2019 年 10 月	東京都豊島区	いた。  東京都豊島区議会議員、民生委員、一般区民 を対象とした、子どもの権利についての理解 を促すための講演。
------------------------------------	---	----------------	--------	--